

理事長からのことば

相変わらず線状降水帯による集中豪雨が各地を襲っています。アンダーパス内の浸水や住宅地の擁壁が崩れるなど、今まであり得なかったことが起きています。残念ながら亡くなられた方もいます。まさか、こんな町の真ん中で水害で命を落とすことになるとは思ってもいなかったでしょう。その恐怖と無念さはいかばかりであったかとお察しするとともに、ご冥福をお祈りします。また復旧に全力で当たっている皆様に敬意を表します。

上尾市向山1-14-7
社会福祉法人 竹柿会
TEL：048-782-0575
FAX：048-782-0590
令和8年9月25日発行

さて、日曜日（9月20日）の朝、朝刊を読んでいて目に留まった記事をご紹介します。朝日新聞日曜版の『はじまりを歩く』です。今回のテーマは「観光川下り」で、京都府亀岡市と福岡県柳川市が取り上げられていました。

亀岡はご存じの方が多くかと思いますが「保津川下り」で亀岡から嵐山までの16キロを2時間かけて下ります。溪谷美で知られる保津峡の奇岩巨岩の間を船頭の巧みな竿さばきでスリリングに下っていきます。

対して「柳川川下り」は戦国から江戸時代にかけて整備された柳川城の周囲の堀割をゆったり下ります。北原白秋の故郷柳川で撮影された映画「からたちの花」（1954年公開）で堀割の舟遊びが有名になり、柳川商工会議所が中心となり1955年から観光事業化しました。城下町の美しい風情の中を静かに川巡りする九州でも人気の観光スポットです。

私も長く柳川川下りには憧れていました。実は高校時代ちょっと写真にはまっていた。その頃読んでいた写真雑誌に、高校生の檀ふみさんがお父さんの故郷である柳川を散策する様子を写した写真紀行が載っていました。中でも川下りの様子の写真が、ずっと心に残っていました。いつかは柳川へと思っていたのですが、念願かなったのが今から20年近く前です。福岡市で全国研究大会に参加した後、天神の駅から西鉄特急で1時間ほどかけて柳川市まで行きました。その時の感動は今でも忘れられません。舟だけではなく自転車も借りて町中を散策しました。柳川の美しい街並み、旧立花家屋敷の料亭など思い出が付きません。ついには筑後川の河口付近まで行きました。中学校の合唱コンクールの定番「河口」をつい口ずさみました。

そんな柳川川下りですが、実は存続の危機があったそうです。昭和40年代、堀割は生活排水やごみ投棄で汚染され、悪臭がひどく、住民でも近づかないほどだったそうです。対策として柳川市は昭和50年代初めに、堀割をコンクリートで覆い地下水路にする埋め立て計画を決めました。檀ふみさんの柳川紀行は50年前後です。そんな劣悪な環境の中で美しく撮られたのだと思います。そんな中、担当係長だった広松伝さんが古賀杉夫市長に「埋め立て計画を再検討してください」と直訴します。「堀を埋めれば軟弱な地盤により柳川は地盤沈下してしまう」と訴えました。熱意に打たれた市長は「半年だけ猶予しよう。その間、堀を浄化する調査をしてくれ」と指示。東京や兵庫の現場を調査した広松さんは、市民と協働し堀割をきれいにする「河川浄化計画」を提案。市長はそれを採用し、埋め立て計画を白紙に戻します。建設省の補助金が決まっていたのですが、市長は建設省にお詫びに行きます。決まっていた補助金を返すということがどれだけ大変なことかというのは、私たちの想像以上です。これだけ熱い役人や、「公」を考えた英断ができる市長がどれだけいるのでしょうか。自身の出世や目先の選挙しか考えていない方が多いのではないのでしょうか。

北原白秋も生前、観光としての川下りに言及していたそうです。この係長と市長の行動を白秋も讃えているのではないのでしょうか。

9～10月の行事

9/26に備前太鼓の演奏会が行われました。

デイサービスでは9月の制作やさまざまなゲームレクリエーションが行われました。

特養ではお茶会やお誕生日会等のレクリエーションが行われました。

10～11月の予定

デイサービスでは、さまざまなゲームレクリエーションやハロウィンにちなんだレクリエーションを企画しております。

特養ではお誕生日会やお茶会等のレクリエーションを企画しております。

今月の行事食

～祝敬老～

- ・お赤飯
- ・すまし汁
- ・天ぷら盛り合わせ
- ・ほうれん草の錦糸和え
- ・フルーツ



